



福船子ども会8名参加



包末子ども会11名参加



堀の内子ども会16名参加



金地子ども会10名参加

敬老会のフォトスナップ



入交会長のあいさつ



あけぼの園児の歌



岩村有志の演芸



茜月会の舞踊



一時はホールいっぱい
100人以上で短冊飾り



今年もみんなで七夕まつり

子ども大人も星に願いを書きました

7月4日(土)午前10時より、岩村ふれあいセンターで「第5回七夕まつり」を開催しました。

各地区子ども会や公民館関係団体が一緒になり、センターのホールは100名近い人々で熱気がいっぱい!当日は小雨が降っていました。大

勢の子ども達の元気なパワーを大人達も沢山もらって、気分が晴れぱれしました。

(編集部)

みんな手際よく約30分でそれぞれの短冊を、12本の竹の笹に飾りつけ星に願いを託しました。今年は短冊が雨に濡れないよう建物の軒下に飾り、夜は反省会を兼ねて「七夕を鑑賞する夕べ」も開催しました。

七夕の意味と語源

7月7日は「七夕まつり」ですが、どうして、短冊に願いを書いたり、竹や笹に飾りつけをするのでしょうか。

七夕の由来は、元々、中国から伝わったもので、「星伝説(織姫と彦星の物語)」と中国の宮中行「乞巧奠(ぎこうでん)」が結びつき一つになったものです。現在では日本特有の行事となり、桃の節句や端午の節句と同じ5節句の一つです。

乞巧奠とは7月7日にはた織りが上手な織女にあやかり、織り糸や針を供えて上達を願う行事でした。それが後年、和歌や書道の上達を祈るようにもなりました。竹や笹はまつすぐ伸びることから、神聖なものとして考えられていたのです。

どうやら鎌倉時代から始まり江戸時代には、庶民の間で結構流行り現在に至っているようです。(編集部)